

被災地の皆様から温かい言葉、 災害時の地元建設会社の迅速な対応に感動

九州北部豪雨のテックフォース報告会開催(7月31日)

湯沢砂防事務所が、九州北部豪雨の被災地に派遣していたテックフォース（緊急災害対策派遣隊）の活動報告会を7月31日、湯沢砂防事務所で開催しました。

報告会では、湯沢砂防事務所から被災状況調査班として派遣された4名の隊員が活動内容などを紹介しました。各隊員からは、被災状況や調査内容、事前準備など様々な意見が報告されました。



報告を熱心に聞き入る職員

班長: 福田 副所長 (今回が11回目のテックフォース派遣)



活動地域は、福岡県朝倉市高木地区の黒川流域。
黒川は、5m程度の河川であったが、今回の豪雨で幅30mぐらいが川となり流出した。

高木地区は、途中の道路が増水で流失し、きつい斜面を登り現地に向かった。地元建設会社のパワーショベルが迅速に道路の復旧を開始した。帰りは一部、道ができあがり楽に戻れた。



大変な被災状況なのに、自宅の片付けをしている地元の皆様に遠く(新潟)から調査にきてもらい有難うと声をかけられ、逆に元気をいただいた。



副班長: 梅田 専門官 (2回目の派遣、女性隊員)



作業内容は、土砂災害危険箇所の緊急点検。作業では、徒歩で河床に堆積した土砂を乗り越え、溪流の奥まで行き崩壊箇所などの状況の把握に努めた。

調査では、崩壊の規模を把握するための計測機を使用する。
今後派遣されることを想定し操作方法を熟知しておくこと。通常の現場でも活用できる。



班員: 佐藤 係長 (初派遣、通常業務は用地交渉などを担当)



班員が災害支援活動に専念できるように、事務処理面、生活面全てにおいてサポートする業務だった。広報用の写真撮影もあわせて実施。

被災現場に派遣されるときは、家族の理解を得ることが大事。こころよく送り出してもらいたい。

防災服は通気性の良いもの。斜面を登攀するので長靴はスパイク付きが良い。簡易トイレ必要。



班員: 辻 技官 (採用2年目、女性隊員)



初めてのテックフォースに参加して、不安と緊張の毎日だった。道路が寸断しており、調査箇所までたどり着くのに時間がかかった。

現地調査も進めていくうちに作業になれ、自信がもてた。